

# 小石川七福神巡りへのお誘い (歴史と文化の散歩道)

出発地点: JR総武線 水道橋駅 東口

出発日時: 令和7年1月6日(月)11時30分  
(昼食は済ませてきてください)

予備日(1月7日(火))

行程: 約3時間半

(実質2時間半程度のウォーキング)

到着地点: 東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅

(自由解散)



- 参加希望者は各地区常任幹事または田辺まで  
(飛び込み参加もOKです。定刻までお待ちします)
- 当日の実施が微妙な場合は9時までに田辺から連絡いたします
- 各自準備品 保険証、常備薬、飲み物 etc.
- 御朱印の用紙は用意しておきます

# 1. 福祿寿



## 旧水戸屋敷と東京ドーム

- 水戸徳川家上屋敷として、二代光圀の時完成した現後楽園庭園に、かつては福祿寿が祀られていた。
- 庭園地続きの屋敷地に威容を構える東京ドームは野球の殿堂、ラクーア、アトラクションズ、ホテルなどは総合娯楽センターである。
- 前記の縁で再祀される福祿寿は、22番ゲート前総合案内所横、クリスタルポイント（ガラスの三角塔）を回り込んだ奥、植え込みの中にある。

小石川七福神会編「小石川七福神」



## 2. 毘沙門天(源覚寺)



- 寺名の通称(こんにやく閻魔)の由来。

宝暦の頃、眼病の老婆この尊像に治癒の願を掛く。閻魔、おのが片目を与えこの願を容れ眼病を治す。老婆、好物の蒟蒻を断ち閻魔に報う」に拠る。

- 歯痛平癒祈願の「塩地蔵尊」も祀られている。
- 「安置の閻魔大王」は、その昔小野篁一刀三礼の御作なり。

小石川七福神会編「小石川七福神」



# 樋口一葉

## 一葉ゆかりの伊勢屋質店 (本郷5-9-4)

万延元年(1860)、この地で創業し、昭和57年に廃業した。樋口一葉(1872~96)と大へん縁の深い質店であった。

一葉の作品によると、一葉が明治23年、近くの旧菊坂町(現本郷4丁目)の貸家に母と妹と移り住んでから、度々この伊勢屋に通い、苦しい家計をやりくりした。明治26年、下谷竜泉寺町に移ってからも、終焉の地(現西片1~17~8)にもどってからも、伊勢屋との縁は続いた。

一葉が、24歳の若さで亡くなった時、伊勢屋の主人が香典を持って弔ったことは、一葉とのつながりの深さを物語る。店の部分は、明治40年に改築した。土蔵は、外壁を関東大震災後ぬり直したが、内部は往時のままである。

～一葉の明治26年5月2日の日記から～

此月も伊せ屋がもとにはしらねば事たらず、小袖四つ、  
羽織二つ、一風呂敷につゝみて、母君と我と持ゆかんとす。  
蔵のうちにはるかくれ行ころもがへ

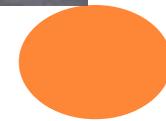
—— 郷土愛をはぐくむ 文化財 ——

東京都文京区教育委員会 昭和63年3月

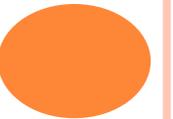
# 樋口一葉(続き)



# 善光寺坂



# 伝通院

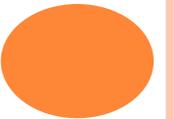


### 3. 大黒天(福聚院)



- 境内には咳止め子育て地蔵があり、咳が治るとお礼に唐辛子を奉納することから「唐辛子地蔵」とも呼ばれている。

小石川七福神会編「小石川七福神」

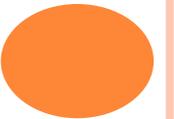


## 4. 布袋尊(真珠院)



- 歴代藩主の墓碑が存する墓域奥に、布袋大石像を祀る。

小石川七福神会編「小石川七福神」

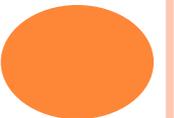
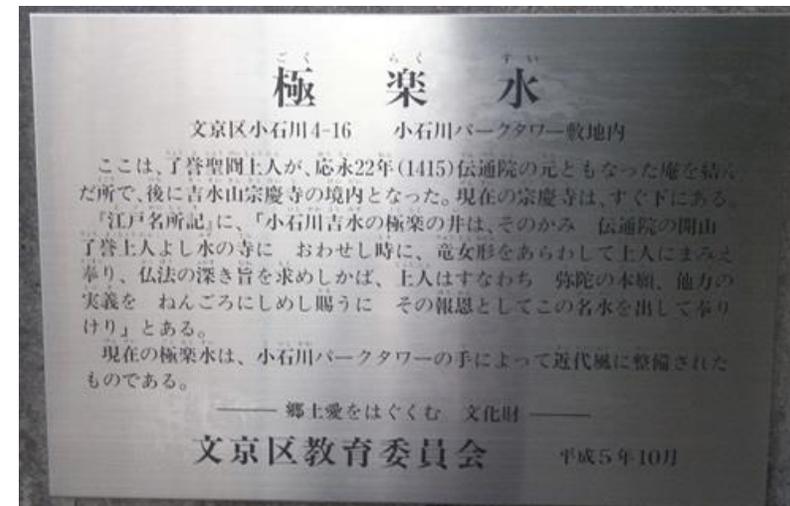


## 5. 弁財天(女弁天、極楽水)



- 江戸名所記に「小石川極楽の井は、そのかみ傳通院の開山了譽聖問上人、この地に草庵を結びし時に、龍女かたちを現して上人にまみえ、仏法の深き旨を求めしかば、上人すなわち弥陀の本願、他力の要法を示したまう。龍女、恩に報い清泉を湧き出し奉る」とある。
- 多々変遷の後、龍女に因む弁才天の祠は、現在小石川パークタワーの庭園内に存する。

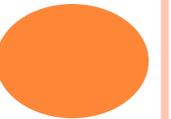
小石川七福神会編「小石川七福神」



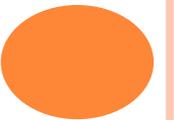
## 6. 寿老人(宗慶寺)



- 家康の死後、側室の阿茶の局は俗世を逃れて伝法院に隠棲し、死後当院に葬られた。
- これ以降、法名朝覚院殿貞誉宗慶大姉に因み寺名を改称した。  
小石川七福神会編「小石川七福神」



# 石川啄木終焉の地

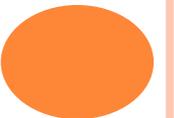


## 7. 弁財天(男弁天、徳雲寺)

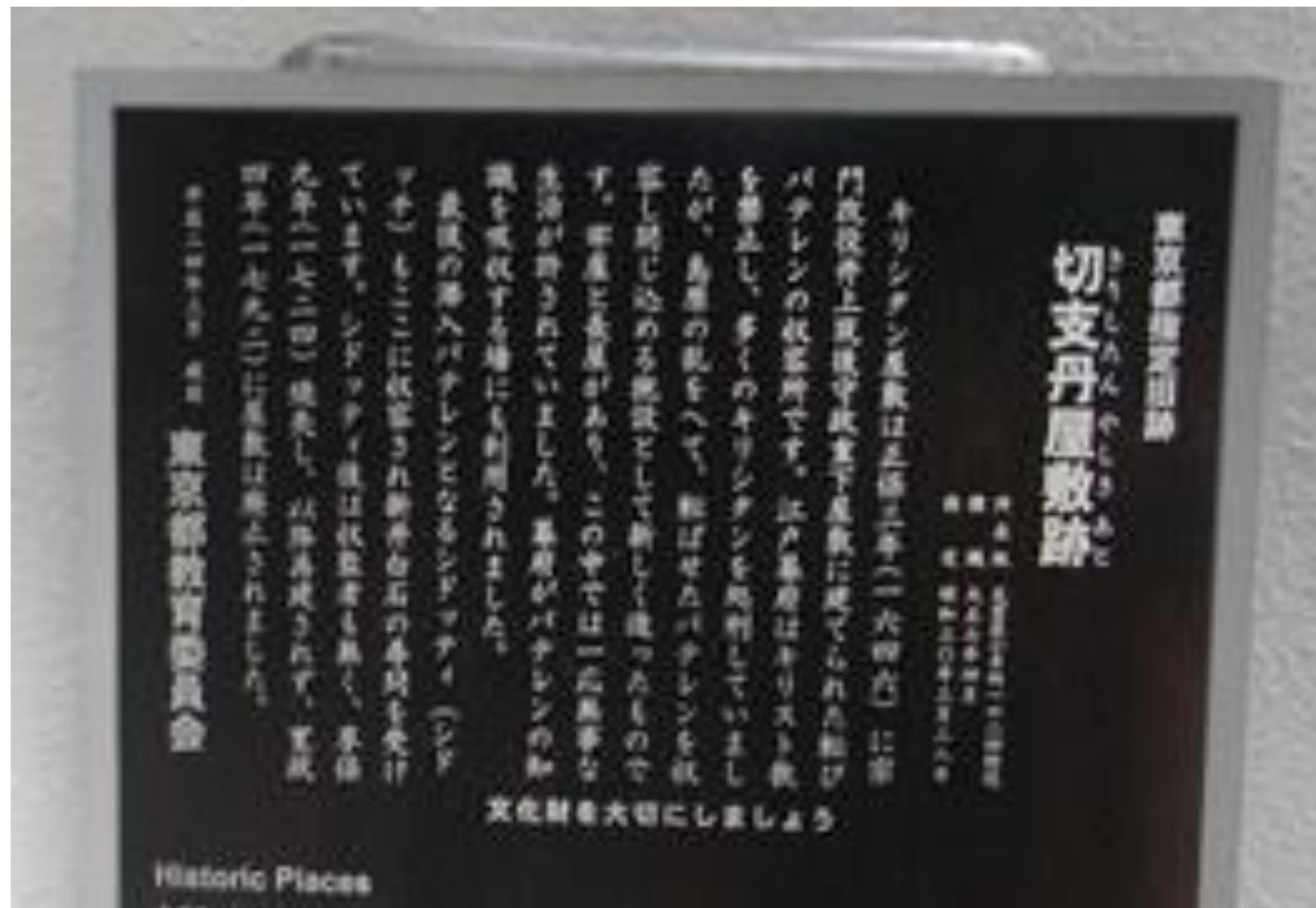


- 一翁碩髻禪師を開山とし、はじめ解脱寺と称した臨済宗円覚寺派寺院。
- 後、白鷗山江南寺、さらに妙峯山徳雲寺と現在名に改称。
- 開基は旗本深谷又佐衛門外2名。
- 文化財としてキリシタン地蔵がある。

小石川七福神会編「小石川七福神」



# 都史跡「切支丹屋敷跡」



## 8. 恵比寿神 (深光寺)

- 本堂左奥に、「著作堂隠誉蓑笠居士」碑銘の唐破風型の墓石が在る。
- 「南総里見八犬伝」などで名高い江戸の戯作者滝沢馬琴のものである。
- 墓地に立つキリシタン灯籠も有名。

小石川七福神会編  
「小石川七福神」



# しばられ地蔵(林泉寺)



## 縛られ地蔵

小日向四七二 林泉寺

人々が願いをかけるとき地蔵尊を縄でしばり願いが叶うと縄をほどくので、しばり地蔵ともいわれた。『江戸砂子』には小日向林泉寺の、しばり地蔵は大変有名であると記されている。

「昔、呉服屋の手代が地蔵さまの前で休み居眠りをしていいるうちに反物を盗まれてしまった。奉行は石地蔵が怪しいと言って地蔵を荒縄でしばり奉行所に運んだので物見高い見物人が一緒に奉行所内に入ってしまった。許しもなく入った人々に罰として三日以内に反物を持参させた。その中に盗品があり犯人を検挙した。」この「大岡政談」の話しの地蔵尊は現在の葛飾区東水元（南蔵院）にあるが、「縛られ地蔵」として有名になったのもこの頃からと思われる。

—— 郷土愛をはぐくむ文化財 ——

文京区教育委員会

